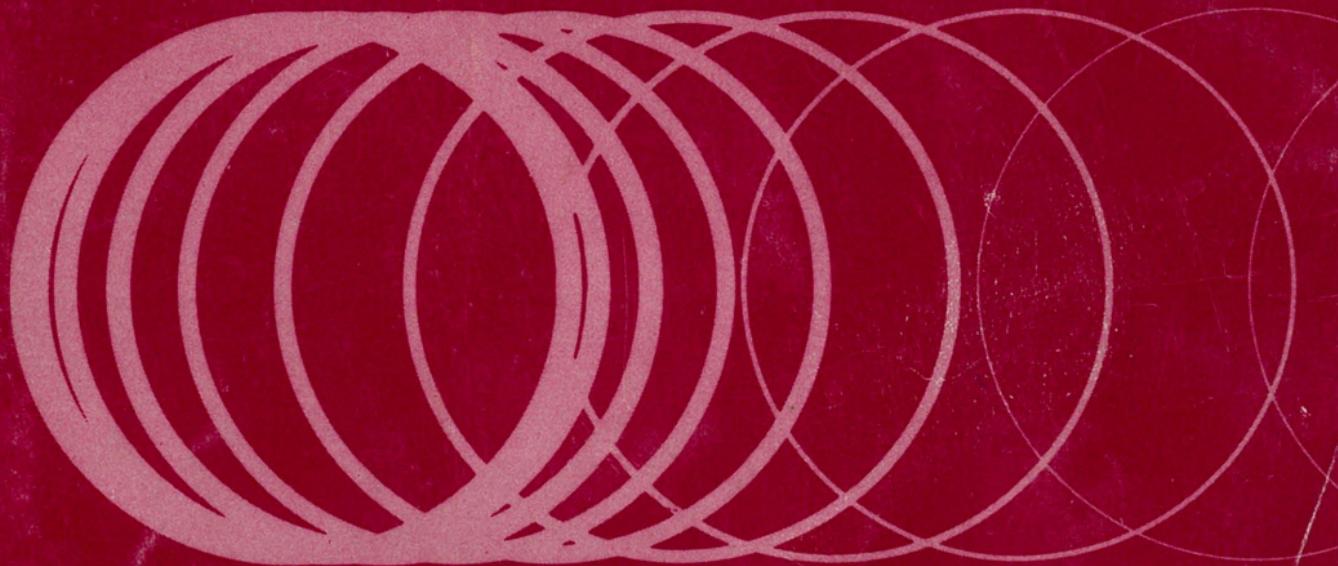




ヘルメットをかぶろう

● 各機関の安全にしようと正しく安全で運転をしよう。

取扱説明書をよく読んで
安全な運転をしましょう。



ホンダ MTX200R 取扱説明書

ホンダMTX200Rをお買いあげいただきありがとうございました。

この取扱説明書には、ホンダMTX200Rの正しい取扱いかた、簡単な点検の方法、安全な運転の仕方などについて説明しております。

より快適に、より安全にお乗りいただくために、この説明書をぜひお読みください。

又、整備手帳、セーフティポイント（安全にお乗りいただくためのアドバイス）も是非お読みください。

お車や、サービスに関するお気づきの点、ご意見などがございましたらお買いあげいただいたホンダ販売店または下記の弊社〈ご相談窓口〉にお気軽にお申しつけください。

名 称	電話番号	郵便番号	所 在 地
本田技研工業株式会社 北海道支店サービス係 〈北海道全域〉	011(251)9231	060	北海道札幌市中央区北一条西7-1
本田技研工業株式会社 仙 台 支 店 サービス課 〈東北6県〉	0222(25)6171	980	宮城県仙台市土樋1-11-2
本田技研工業株式会社 東 京 支 店 サービス課 〈関東・甲信越地方〉	03(498)3251	150	東京都渋谷区神宮前6-27-8
本田技研工業株式会社 名古屋支店サービス課 〈三重・東海・北陸地方〉	052(261)2671	460	愛知県名古屋市中区千代田1-7-2
本田技研工業株式会社 大 阪 支 店 サービス課 〈近畿(三重除く)、中国(山口除く)、四国地方〉	06(313)1171	530	大阪府大阪市北区南扇町7-31
本田技研工業株式会社 九 州 支 店 サービス課 〈九州全域と山口〉	092(291)5131	812	福岡県福岡市博多区祇園町8-7
沖縄サービスセンタ(沖縄県)	0988(77)3097	901-21	沖縄県浦添市字仲間仙原1506(沖縄ホンダモータ内)

電話番号、住所などは変更になることがあります

ご乗車の前に

お買い上げになりましたら、販売店にて「取扱説明書」「整備手帳」「セーフティポイント」を受け取り、下記の説明を受けてください。

- ★お車の正しい取扱い方
- ★保証内容と保証期間
- ★車両受領書・保証書受領書記入・捺印
- ★点検・整備について

- 改造にはご注意を。

車の構造や機能に関係する改造は、操縦性を悪化させたり、排気音を大きくしたり、ひいては車の寿命を縮めることになります。このような改造は、法律に触れるることは勿論、車の保証を受けられないで改造はしないでください。

●車を購入された当初は、いろいろ注意をはらって運転しますが、少し慣れてくるとこれらの注意を忘れがちになり、事故を起こす場合があります。

車に乗る時、いつも心がけなければならない重要な注意事項を書いた「安全項目ラベル」が車に貼ってありますので、これらの注意をいつもお守りください。

- ヘルメットをかぶりましょう。
- 法定速度を守りましょう。
- マフラーは熱くなります。人が触れない場所にとめましょう。
- 定められた点検整備を励行しましょう。

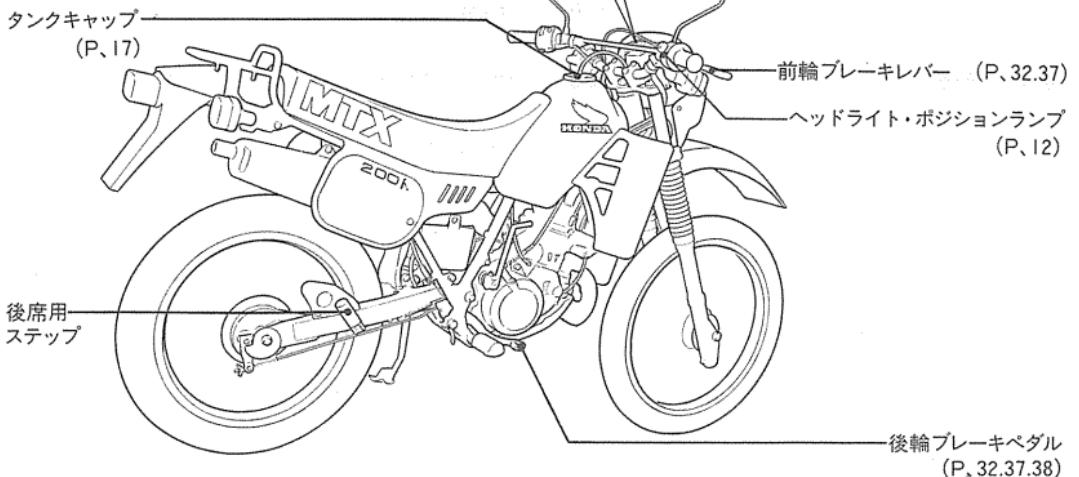
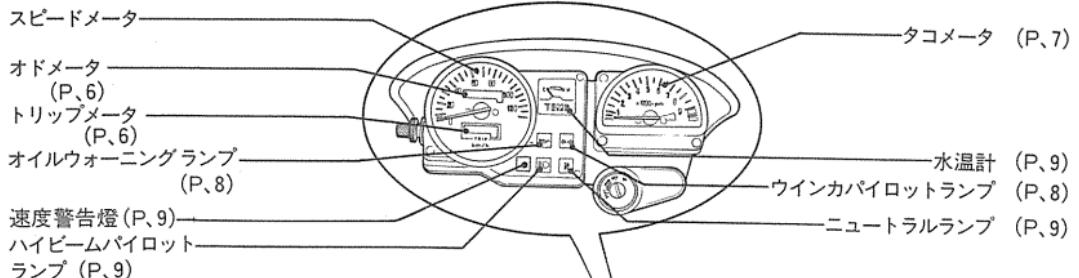
- 仕様などにより、図や内容が一部実車と異なる場合がありますのでご了承ください。
- この車は、運転者を含めて2人まで乗車できます。

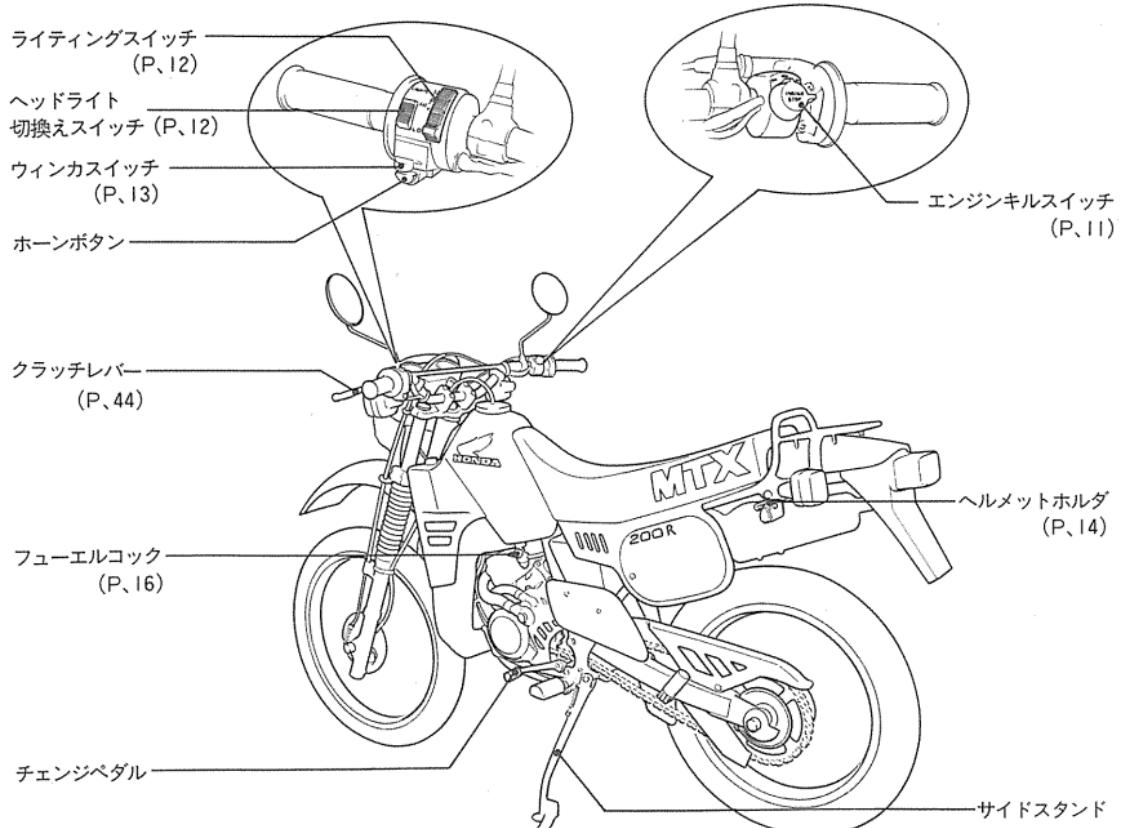
■ 目 次

各部の名称	4	オイルの補給	18
各部の説明と取扱い	6	書類入れ	20
メータ・ランプ類	6	ブレーキペダルの高さ調整	21
メインスイッチ	10	正しい運転操作	22
エンジンキルスイッチ	11	エンジンのかけかた	22
ヘッドライト・ポジションランプ	12	チェンジのしかた	24
ウインカスイッチ	13	走りかた	25
ヘルメットホルダ	14	ブレーキの使いかた	27
ハンドルロック	15	注意事項	28
フューエルコック	16	法定点検	29
ガソリンの補給	17	ハンドルの点検	31

ブレーキの点検	32	クラッチの点検・調整	44
タイヤの点検	33	エアクリーナメントの交換	45
ラジエータ液の点検	34	スパークプラグの点検	47
その他の点検	35	ヒューズの交換	48
定期点検	36	色物部品をご注文のとき	50
やさしい点検・整備	36	エンジンが始動しないとき	51
携帯工具	36	主要諸元	52
ブレーキ調整	37	配線図	卷末
ミッションオイルの交換	39		
ドライブチェーンの点検・調整	41		
バッテリ液の点検・補充	43		

■各部の名称





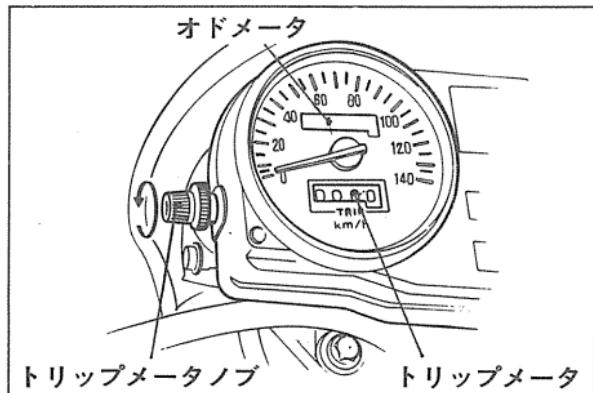
■各部の説明と取扱い

●メータ類

オドメータ

走行した総距離をkmの単位で示します。

白地に黒数字は100mの単位です。



トリップメータ

メータを“0”に戻した時点からの走行距離を示します。

戻すときは、トリップメータノブを矢印の方向に回します。

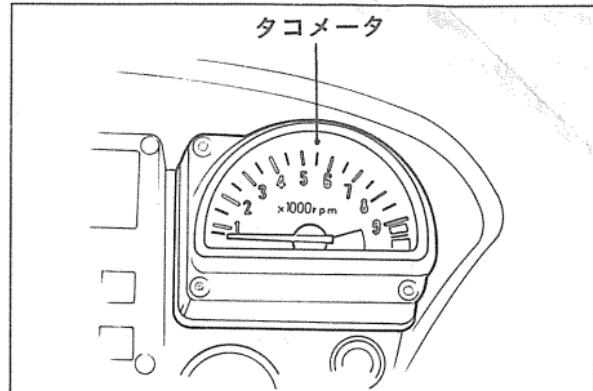
タコメータ

エンジンの回転数を示します。

注意

- ・慣らし走行後もエンジン回転は、タコメータのレッドゾーンに指針が入らないように注意し走行してください。
- ・空吹かし及び1速2速ギヤ位置での急加速はレッドゾーンに入りやすいので特に注意してください。

レッドゾーンとはエンジンの限界回転域を示したものでレッドゾーン以上で使用するとエンジン回転が不円滑になりエンジン寿命に悪影響を与えます。



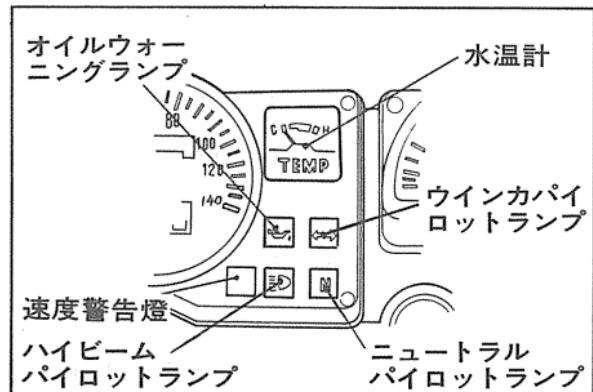
●ランプ類

ウインカパイラットランプ

メインスイッチのキーを“ON”の位置にして、ウインカスイッチを操作すると点滅します。

オイルウォーニングランプ

メインスイッチのキーを“ON”にすると点灯し、数秒後に消えるのが正常です。オイルタンク内のオイルが約0.2lになると点灯します。点灯したら、推奨オイル“ホンダワールトラ2スーパ”（分離給油用=青色）を補給してください。



注意

- ・メインスイッチを“ON”にしてもオイルウォーニングランプが点灯しない場合は、球切れかバッテリあがりまたは、回路の異常です。販売店またはホンダS Fで点検・整備をうけてください。
- ・数秒たってもオイルウォーニングランプが消えない場合は、オイルが少なくなっています。早めに推奨オイルを補給してください。

注意

- ・走行中にオイルウォーニングランプが点灯した場合も早めに推奨オイルを補給してください。

ハイビームパイロットランプ

ヘッドライトが点灯し上を向いているときに点灯します。

ニュートラルパイロットランプ

メインスイッチのキーが“ON”の位置にありエンジンがニュートラルの位置にあるとき点灯します。

水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

走行中は、指針が目盛の赤マークより内側にあるのが正常です。指針が赤マークを指していたら、リザーブタンク液量を点検してください。

速度警告燈

スピードメータの指針が85km/h付近になると点灯します。

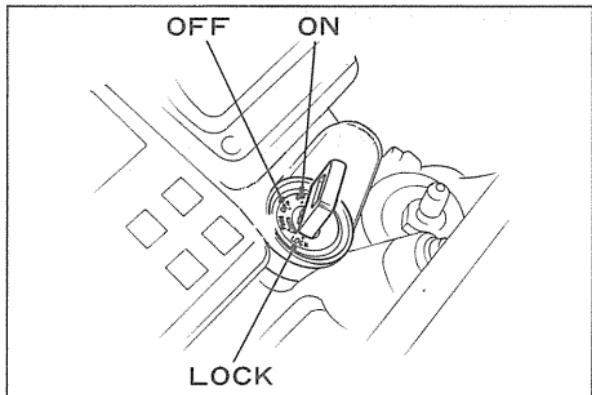
注意

- 高温下での長時間にわたるアイドリングにより、指針が赤マークを指す場合があります。この場合は、走行してエンジンを冷やすか、エンジンが冷えるまでエンジンを停止してください。

●メインスイッチ

メインスイッチは、電気回路の断続を行ないます。

キーの位置	作用	キーの脱着
ON	始動・昼夜間走行 ホーン、ウインカランプ ストップランプ、ヘッドライト、ポジションランプなどが使える。	抜けない
OFF	停止 (電気回路は全部遮断する)	抜ける
LOCK	ハンドルをロックすること ができる。 電気回路も全部遮断する	抜ける



注意

- ・車をはなれるときは、必ずキーを抜いてお持ちください。

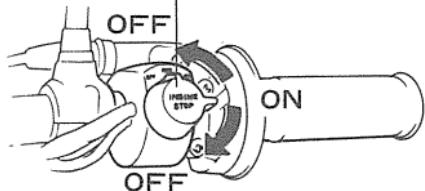
●エンジンキルスイッチ

エンジンキルスイッチは、転倒またはスロットル系統に故障を生じたときなど非常の場合に、エンジンを停止するため手もとに設けたものです。通常は“RUN”の位置にしておいてください。“OFF”の位置ではエンジンはかかりません。

注意

- ・キルスイッチは非常の場合以外は使用しないでください。走行中にメインスイッチおよびキルスイッチを“ON”→“OFF”→“ON”にすると、エンジン回転が不円滑となり、走行不安定の原因となります。またエンジンにも悪影響をおよぼす恐れがあります。
- ・非常にキルスイッチでエンジンを停止した場合、忘れずにメインスイッチを“OFF”にしてください。“ON”的ままにしておくと、バッテリあがりの原因となります。

エンジンキルスイッチ



●ヘッドライト・ポジションランプ

《ライトのつけかた》

エンジンを始動し、ライティングスイッチで行ないます。

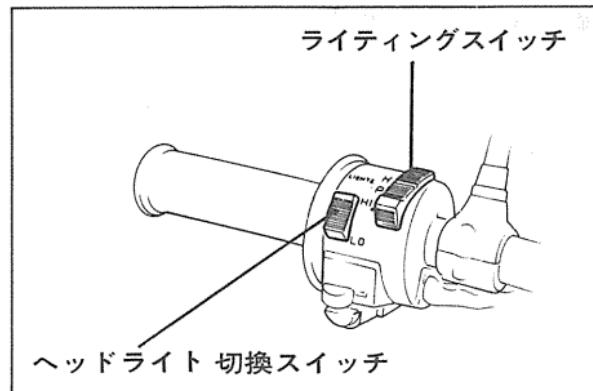
メイイン スイッチ の位置	作用
H	ヘッドライト、ポジションランプ テールランプ点灯
P	ポジションランプ点灯 テールランプ点灯
●	消 灯

- ポジションランプは、簿暮走行時に対向車への位置標示ができます。また夜、交差点で停止したときなど対向車に眩惑を与えることなく自車の存在を知らせることができます。

《ヘッドライトの切換え》

ヘッドライト切換えスイッチで行ないます。

Hi	上 向 き
Lo	下 向 き



● ウインカスイッチ

右左折するときや、進路変更する場合にはウインカで合図します。

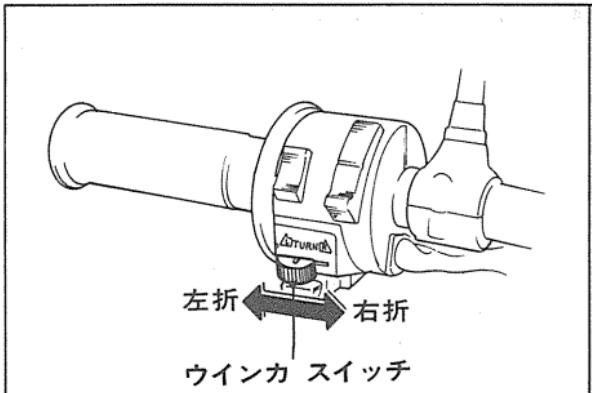
《使いかた》

メインスイッチのキーを“ON”の位置にしてスイッチを操作すると、ウインカが作動します。

R	右 折
L	左 折

注意

- 電球（バルブ）は、正規のワット数以外のものを使用しますと、ウインカが正常に作動しなくなります。必ず正規のワット数のものを使用してください。
- ウインカスイッチは、自動的に戻りません。使用後は、必ずもとに戻してください。他の車の迷惑になります。



●ヘルメットホルダ

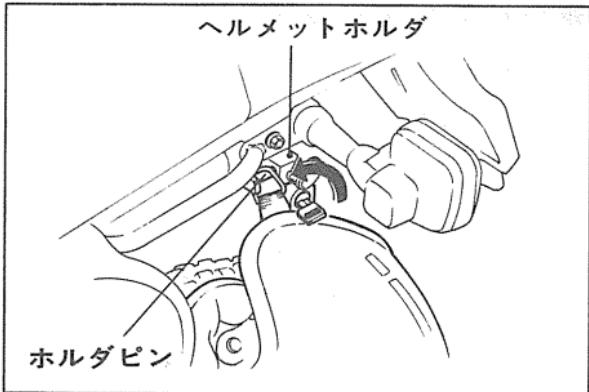
ヘルメットホルダを利用しますと、車を止めた時ヘルメットを持ち歩く必要がありません。また、ロックができますから盗難を予防します。

《使いかた》

1. メインスイッチのキーをヘルメットホルダに差し込み、左にまわしてロックを解除します。
2. ホルダピンに、ヘルメットの金具をかけます。
3. ホルダピンを押してロックします。

注意

- ・ヘルメットをヘルメットホルダにつけたまま走行しないでください。つけたまま走行すると車の部品に損傷を与えたり、後輪の回転を妨げることがあります。またヘルメットに損傷を与え保護機能を低下させます。



●ハンドルロック

盗難予防のため、車から離れるときは必ずハンドルロックをかけましょう。

《かけかた》

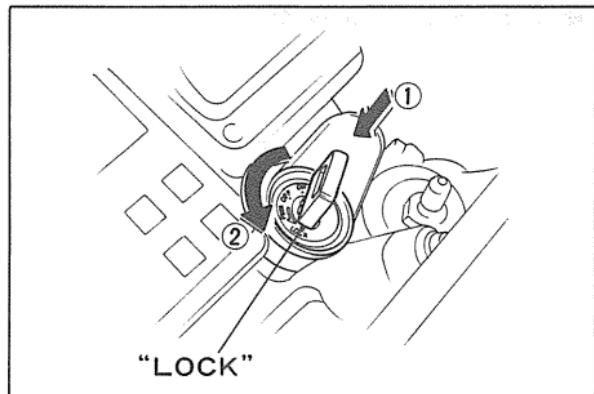
1. ハンドルを左または右にきます。
2. メインスイッチにキーを差し込みます。
3. キーを押し込みながら“LOCK”の位置まで左にまわします。

《外しかた》

- ・かけかたの逆の要領で行ないます。

注意

- ・ハンドルが確実にロックされているかハンドルを左右に動かして確認してください。
- ・交通のじやまにならない安全な場所を選んで駐車しましょう。
- ・走行前は、ハンドルを左右に切って切れ角が左右均等であるか確認してください。



● フューエルコック

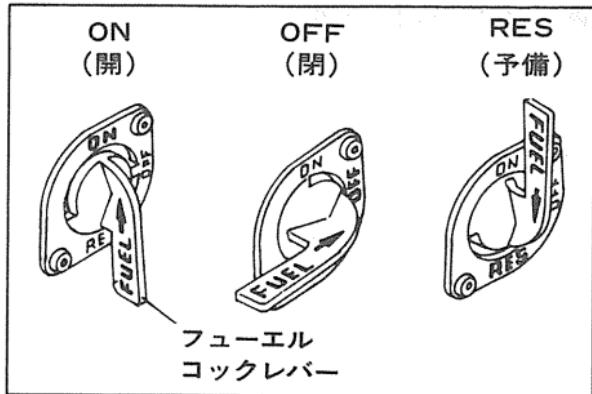
レバーの矢印がそのときの位置を示します。

ON……キャブレータにガソリンが流れます。
エンジンを始動するときはこの位置に
します。

OFF……キャブレータにガソリンが流れません。
乗車するとき以外は、この位置にしま
す。

RES……予備燃料です。（容量は約 2.2ℓ です）
“ON”で走行中燃料がなくなったらこ
の位置にします。早目にガソリンを補
給してください。

補給後は“ON”に戻してください。戻
し忘れると、走行中に予備燃料がなく
なり走行できなくなります。

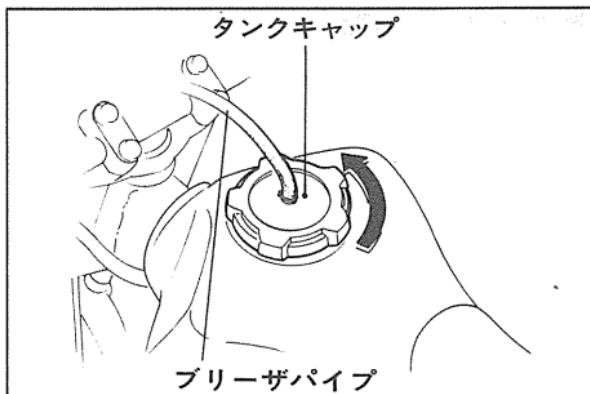


●ガソリンの補給

タンクキャップは、左方向にまわすと外れます。ガソリンは注入口の下側にあるレベルプレート下端まで入れます。無鉛ガソリンを使用してください。

注意

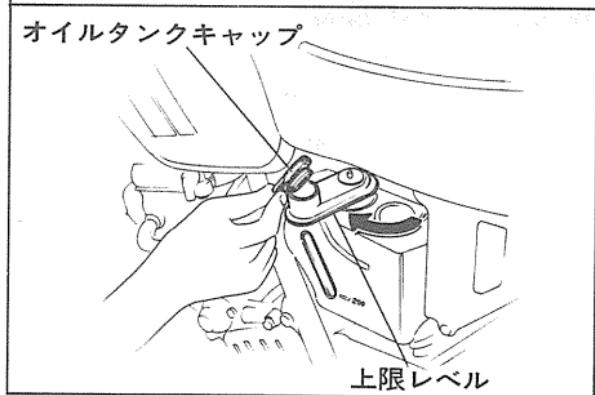
- ・補給は、必ずエンジンを止め、火気厳禁で行なってください。
- ・ガソリンをレベルプレート下端以上に入れるとタンクキャップのブリーザパイプからガソリンがにじみ出ることがあります。
- ・タンクキャップは確実にしめてください。
- ・ガソリンを補給した後、ブリーザパイプをステムナットに差し込んでください。



● オイルの補給

オイルウォーニングランプが点灯したら、オイルを補給してください。(オイルが約0.2 ℥になると、オイルウォーニングランプが点灯します。)

1. 左サイドカバーを外します。
2. 補給口を引き出し、オイルタンクキャップを外します。
3. オイルを上限レベルまで補給します。
推奨オイル：ホンダウルトラ2スーパー
(分離給油用=青色)
4. オイルタンクキャップを取り付け補給口を戻します。



注意

- ・オイルが切れたままエンジンを回転させると潤滑不良で焼付等をおこし、エンジンがこわれます。必ず点検してください。
- ・推奨オイル、ホンダウルトラ2スーパと他車名柄のオイルとの混用はエンジン不調の原因になりますので避けてください。
- ・オイル補給時、ゴミ、ホコリなどの混入がないようにご注意ください。
- ・補給後、しっかりキャップを取付けてください。

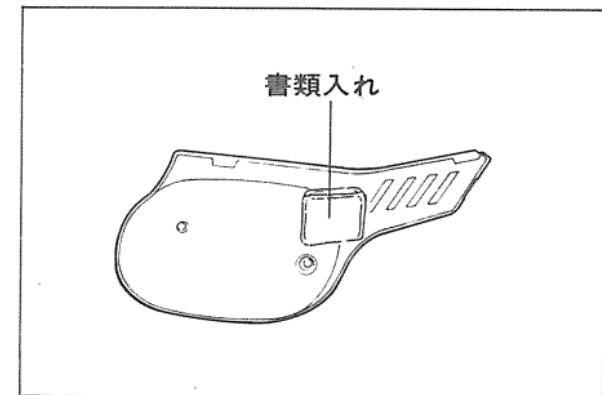
●書類入れ

左側サイドカバーを取外すと、サイドカバーの裏側に書類入れがあります。

取扱説明書や整備手帳は、ここに保管してください。

注意

- ・洗車時、サイドカバーの下方から強く水をかけないでください。内部に水が入ることがあります。



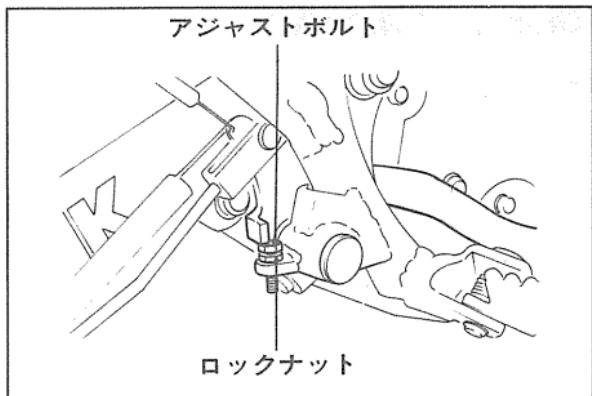
● ブレーキペダルの高さ調整

ブレーキペダルの高さは、若干の調整ができます。

調整はロックナットをゆるめアジャストボルトで行ないます。

注意

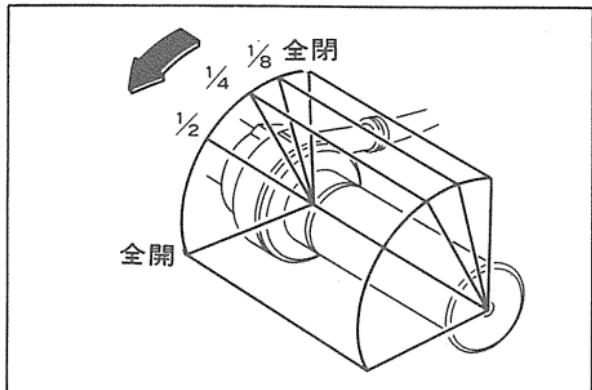
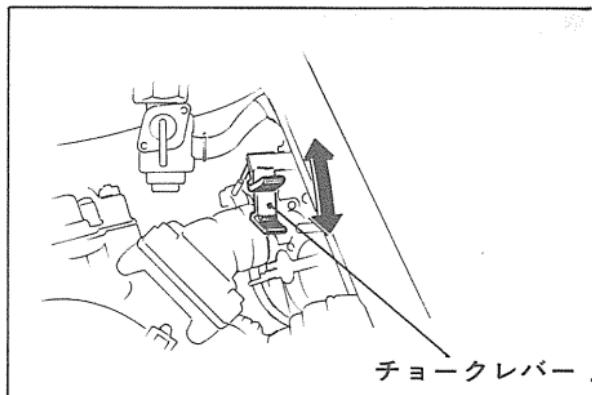
- ・調整後、確実にロックナットを締付けてください。
- ・ブレーキペダルの高さ調整を行なった後は必ずブレーキ調整をしてください。



■ 正しい運転操作

● エンジンのかけかた

1. キルスイッチが“RUN”になっていることを確認します。
 2. フューエルコックレバーを“ON”にします。
 3. メインスイッチを“ON”にします。
 4. チェンジをニュートラルにします。(ニュートラルランプで確認してください)
 5. チョークレバーをいっぱいに上げます。エンジンが暖まっているときは、チョークレバーを使用する必要はありません。
 6. スロットルグリップを閉じ、キックします。
エンジンが暖まっているときは、スロットルグリップを $1/8$ から $1/4$ ほど開き、キックします。
- 通常の場合これでエンジンがかかります。
(エンジンがかからないときは、51ページ記載の要領で確認してください)



7. エンジンがかかったら、回転がスムーズになるまで暖機運転し、チョークレバーを完全に戻してからスタートします。

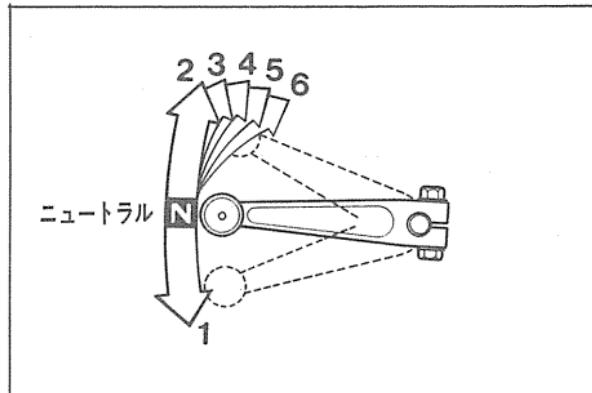
注意

- ・排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。しめきったガレージの中や、せまい場所での始動は避けてください。
- ・エンジンが入った状態で、クラッチを切らないでキックすると、飛び出しや転倒があります。必ず、ニュートラルを確認してから始動してください。
- ・無用の空ふかしはしないでください。ガソリンの無駄使いになるばかりでなくエンジンに悪影響を与えます。

● チェンジのしかた

チェンジは、右図のような6段リターン式です。

- ・変速は、スロットル グリップを一旦戻して、クラッチ レバーを完全に握ってから行ないます。
- ・軽くつま先で行ない、ペダルにコツンと足ごたえのあるまで確実に操作してください。無理をすると、チェンジ機構を痛める原因となります。



●走りかた

- ・走行前に、サイドスタンドが完全に納まっているか確認してください。
- ・車のスピードに応じてギヤーを切換えることが必要です。右表は、その速度範囲を示したものです。
- ・不必要的急加減速をつつしんで走ることが、燃料の節約と車の寿命をのばします。

	速 度 範 囲
1 速	0 ~ 30 km/h
2 速	15 ~ 50 km/h
3 速	20 ~ 70 km/h
4 速	25 ~ 85 km/h
5 速	30 ~ 100 km/h
6 速	35km/h 以上

注意

- ・発進は、できるだけ静かに行ないましょう。
- ・走行中に異音や異常を感じたときは、ただちに販売店またはホンダS Fで調べましょう。
- ・法定速度を守って走りましょう。

《シフトダウのしかた》

追い越しするときなど、強力な加速が必要なときは、シフトダウンをすると加速力が得られます。

あまり高い速度で行なうと、エンジンの回転が上がりすぎて、エンジン、ミッションに悪影響を与えます。右表の速度内で行ないます。

	シフトダウン可能限界速度
6速→5速	90km/h 以下
5速→4速	80km/h 以下
4速→3速	60km/h 以下
3速→2速	40km/h 以下
2速→1速	25km/h 以下

●ブレーキの使いかた

- ・ブレーキは、前後輪を同時に使いましょう。
- ・不必要的急ブレーキは避けましょう。

注意

- ・前輪ブレーキまたは後輪ブレーキのどちらか一方のブレーキのみ使うと、車が横すべりして転倒するおそれがあります。
- ・雨天走行や路面が濡れている場合、急激なブレーキをかけるとタイヤがスリップして転倒の原因になることがあります。スピードを落として、余裕をもったブレーキ操作をしてください。

《エンジンブレーキ》

スロットルグリップをもどすとエンジンブレーキがききますが、さらに強力なブレーキを必要とするときは5速、4速……とシフトダウンを行なってください。

長い下り坂、急な下り坂などでは、断続的なブレーキ操作とエンジンブレーキを併用してください。

連続的なブレーキ操作は、ブレーキがオーバーヒートし、ブレーキ効果を減じる原因になるので、避けてください。

注意

- ・急激なシフトダウンは、尻振りなどの原因となります。26ページの表にしたがって行なってください。

注 意 事 項

- ・運転者の身を守るヘルメットを必ず着用しましょう。手袋・眼鏡など着用するよう心がけてください。
- ・運転を阻害するような服装はやめましょう。ブレーキレバーやクラッチレバーに引掛かったり、ドライブチェーンなどの回転部分に巻き込まれたりして危険です。
- ・ブレーキ操作やチェンジ操作に支障をきたすようなはきものはやめましょう。
- ・乗車するときは、運転者は両手でハンドルを握り、両足をステップに置いてください。うしろへ人がのるときは、両手でしっかりと握らせ、両足は必ずリヤーステップにのせてください。
- ・急激なハンドル操作や、片手運転は避けてください。これは、すべての二輪車の安全運転の原則です。
- ・荷物を積んだときは、積まないときにくらべて操縦安定性が変わります。積載するときは、“積み過ぎない”、“荷物を固定する”など十分注意し、安全に走行してください。
- ・エンジン回転中や停止直後は、エンジン本体やマフラーの一部が熱くなっています。直接触れないでください。
- ・車は水平な場所に駐車しましょう。坂道、砂利道、でこぼこな所では、サイドスタンダードが不安定になり転倒するおそれがあります。
- ・車は常に清潔に手入れをし、定められた点検整備を必ず行ないましょう。たとえば、フロントクッションに泥やほこりがついたまま走行すると、オイルシールやパイプを傷つけてオイル洩れの原因になることがあります。
- ・洗車時、マフラーに水を入れないでください。マフラー内部に水がたまると始動不良などの原因になることがあります。
- ・車にワックスをかけるとき、塗装部をコンパウンドワックスなどで強く磨くと塗膜が薄くなったり色むらが生じる場合がありますのでご注意ください。

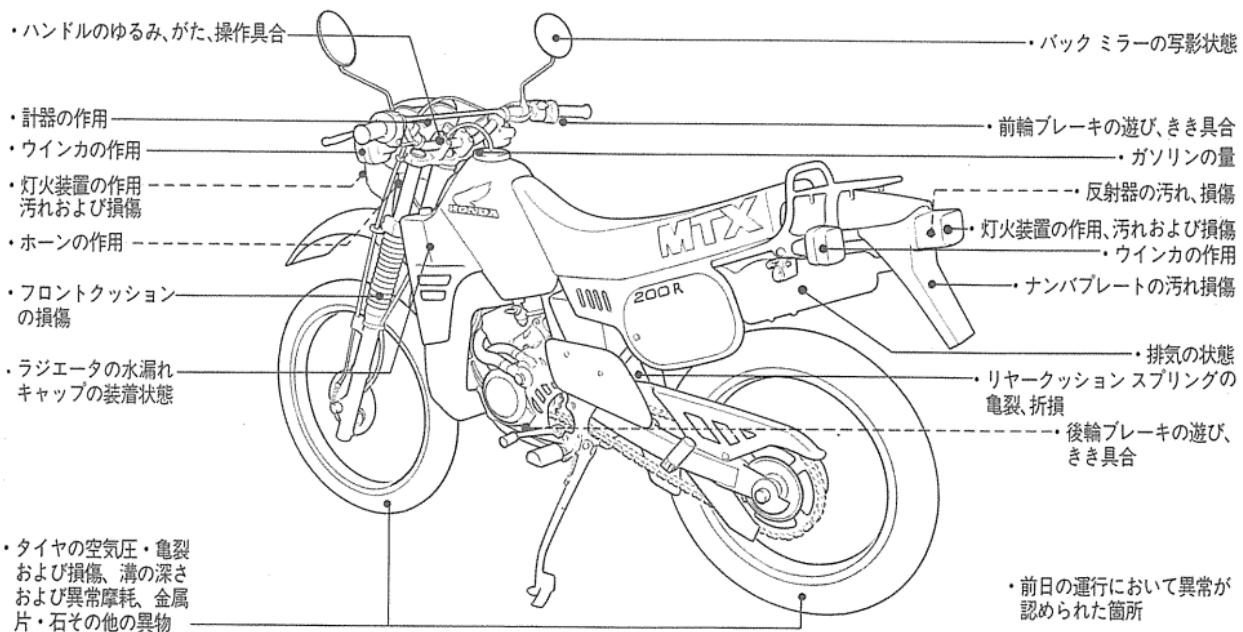
お車をご使用のかたには、法律（道路運送車両法）で、ご使用者の安全と車の事故を未然に防ぐため、1日1回走行前の仕業点検と6・12か月ごとの定期点検を行なうことが義務づけられています。

詳細は、別冊「整備手帳」をご覧ください。

■法定点検

仕業点検

ご使用者の安全と車の故障や事故を未然に防ぐために仕業点検を行ないます。簡単に短時間で点検できます。お出かけ前には必ず点検作業をするように習慣づけましょう。



●ハンドルの点検

ハンドルのゆるみ、がた、操作具合を点検します。

《ハンドルのゆるみ、がたの点検》

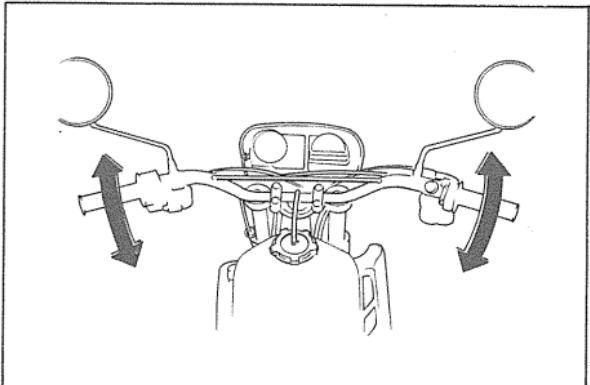
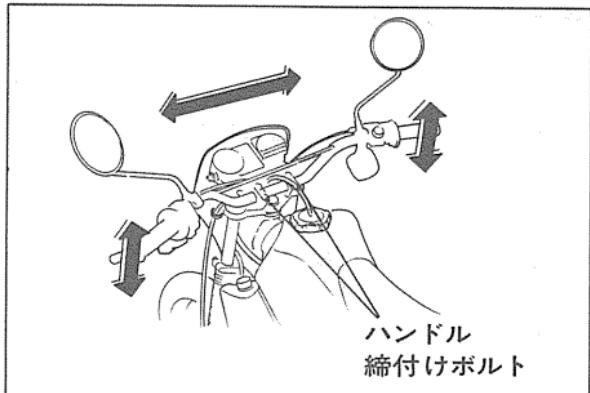
- ・ハンドルホルダ締付けボルトのゆるみがないか点検します。
- ・ハンドルを上下・左右方向に動かし、がたがないか点検します。

《ハンドルの操作具合の点検》

- ・走行中ハンドルが異常に振れたり、とられたりしないか、重くないか点検します。
- ・また、路面より前車輪を浮かせハンドルを左右に回転させて、重くないか、他の部品との干渉はないか点検します。

注意

- ・ハンドルの点検を行なって異常があつたら販売店またはホンダ S Fで点検整備を受けてください。



●ブレーキの点検

ブレーキは遊び、きき具合を点検します。

《前輪ブレーキレバーの遊びの点検》

ブレーキレバーを軽く握り、レバーの先端で点検します。遊びは25~35mmあるのが正規です。

《後輪ブレーキペダルの遊びの点検》

ブレーキペダルを軽く押して、ペダルの先端で点検します。遊びは25~35mmあるのが正規です。

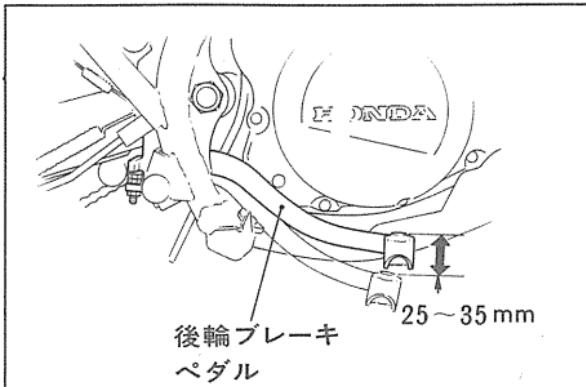
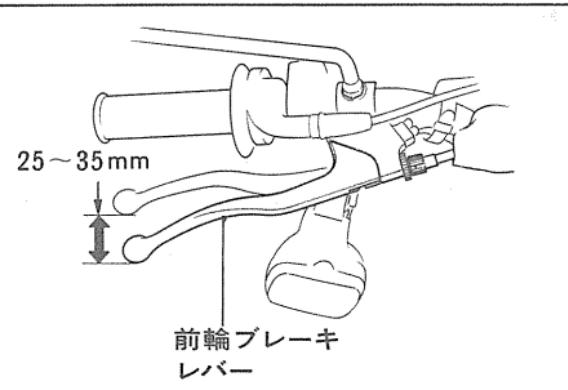
《ブレーキのきき具合の点検》

ブレーキを作動させて、前後のきき具合を点検します。

ブレーキの遊びが正規でないとき、ブレーキのききが悪いときは、ブレーキ調整を行なってください。(37ページ参照)

注意

- ・ブレーキ調整をしても遊びやきき具合がなかなかならないときは、販売店またはホンダS Fで点検整備を受けてください。



●タイヤの点検

《空気圧の点検》

タイヤゲージで点検します。(タイヤが冷えているときに計らないと、正確な値が出ません。)

タイヤ空気圧

	前 輪	後 輪
1名乗車	1.50kg/cm ²	1.50kg/cm ²
2名乗車	1.50kg/cm ²	1.50kg/cm ²

- ・空気圧が正規でないときは、必ず正規の空気圧にしてください。

《亀裂・損傷・溝の深さ・異常摩耗》

金属片・石、その他の異物の点検

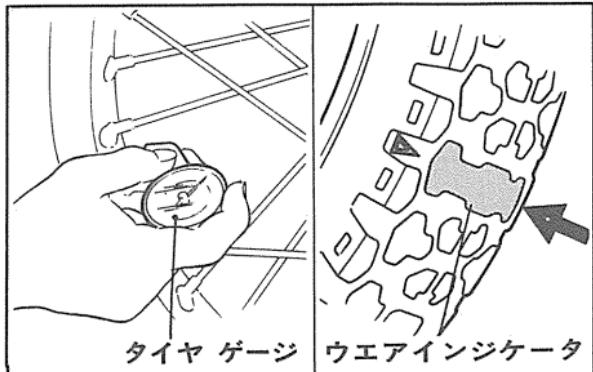
- ・タイヤに亀裂・損傷・異常摩耗がないか点検します。
- ・金属片・石その他の異物がかみ込んでいたら、取除いてください。
- ・図のようにタイヤに設けたウェアインジケータ（摩耗限界表示）が出てきたときはタイヤの使用限度なので直ちに交換してください。
- ・交換の場合、タイヤのサイズは

前輪：2.75-21-4PR

後輪：4.10-18-4PR

注意

- ・空気圧が正常ではなかったり、タイヤに亀裂損傷や異常摩耗があると、ハンドルをとられたり、パンクのなど原因になります。



● ラジエータ液の点検

- エンジンが冷えているときに車を垂直に立て、ラジエータ液のレベルが、リザーブタンクの上限“F”と下限“L”の間にあるか点検します。
- ラジエータ液の液面が下限“L”に近い場合は、キャップを外し、上限“F”まで指定ラジエータ液を補充してください。

指定液：

指 定 液	ホンダ純正ウルトララジエータ液
ラジエータ液 規 定 濃 度	30% (寒冷地は50%)

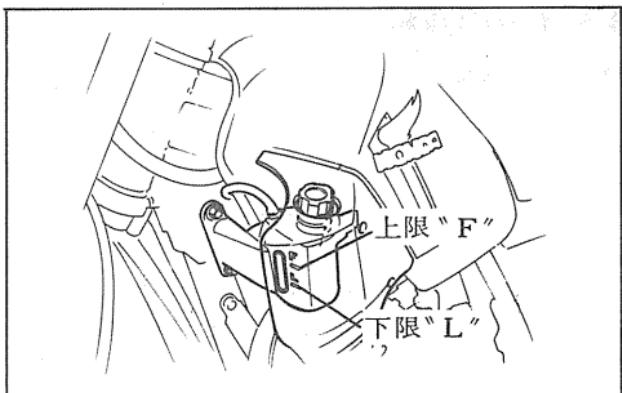
ラジエータ液濃度による不凍温度は

30%の場合 -16°Cまで

50%の場合 -37°Cまで

注意

- 水温が高いときキャップを外すと、冷却水には圧力がかかっていますので蒸気や熱温がふき出し危険です。水温が下がってから布切れなどでキャップを包み開けてください。



注意

- ラジエータ液を薄めるときは上水道(軟水)を使用してください。
- 粗悪なラジエータ液を使用するとエンジンの寿命を縮めますので注意してください。
- ラジエータ液の交換は、ホンダ販売店またはホンダ S F で行なってください。

その他の点検

●ガソリン量の点検

燃料の量が目的地まで走行するのに十分であるかを点検します。

●方向指示器の点検

メインスイッチを“ON”にしてウインカースイッチを“R.”または“L.”にして、右（前・後）・左（前・後）の方向指示器が正しく点滅するか確認します。

●ヘッドライト、テールライトの点検

エンジンを始動して、ライティングスイッチを“H”の位置にしてヘッドライト、テールライトが点灯するかを確認します。

レンズの汚れや破損も確認しましょう。

●計器の点検

エンジンを始動し、または走行して、スピードメータ、タコメータ、水温計の作動を点検します。

●ホーンの点検

メインスイッチを“ON”にして、ホーンボタンを押して確認します。

●クッションスプリングの点検

ハンドルまたはシートに体重をかけ、前後クッションが正しく作動（はずむ）するか確認します。

●バックミラーの点検

シートに座って、正しい運転姿勢をとったとき後方がバックミラーに正しく写るか確認します。また汚れ、破損についても点検しましょう。

●ナンバープレートの点検

ナンバープレートが汚れていないか点検します。汚れていたらきれいにしましょう。

また破損・変形がないかも点検しましょう。

●排気の点検

エンジンを始動してマフラーからの排気は正常か点検します。

●前日の走行中に異常を認めた個所について完全に修理されているか、運行に支障がないかを点検します。

定期点検

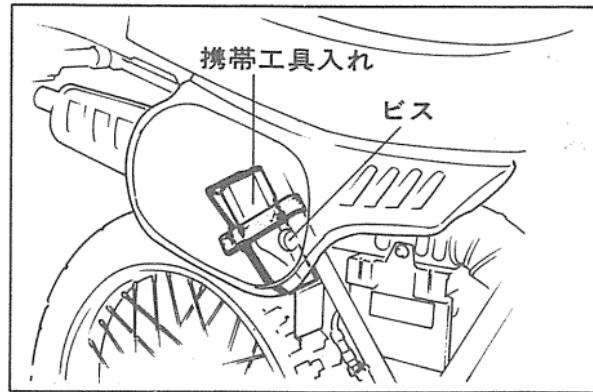
ホンダ販売店またはホンダS Fが、あなたに代って行ないます。

点検時期、点検項目については、別冊「整備手帳」をご覧ください。

■やさしい点検・整備

●携帯工具

右サイドカバーを外すと携帯工具入れがあります。



● ブレーキ調整

《前輪ブレーキの調整》

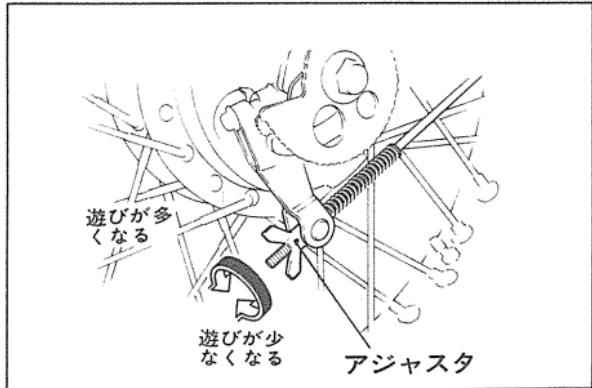
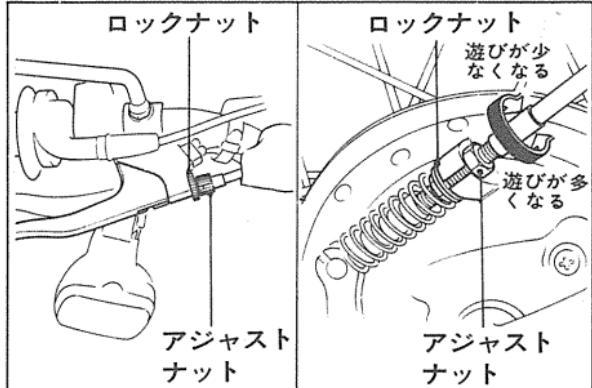
- ・前輪ブレーキレバーの遊びは、レバー先端で25~35mmあるのが正規です。
- ・調整は、ロックナットをゆるめ、アジャストナットをまわして行ないます。
- ・調整後、ロックナットを締付けます。

《後輪ブレーキの調整》

- ・後輪ブレーキペダルの遊びは、ペダル先端で25~35mmあるのが正規です。
- ・調整は、アジャスタをまわして行ないます。

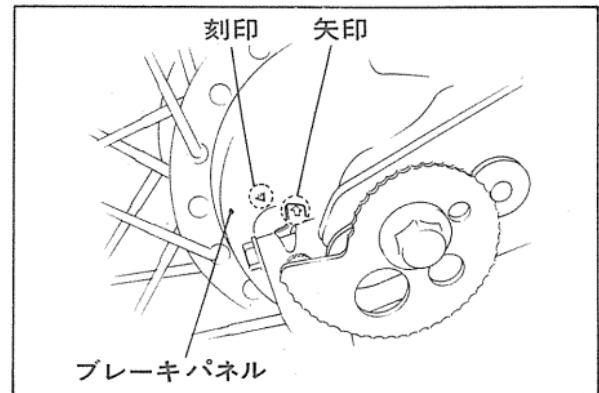
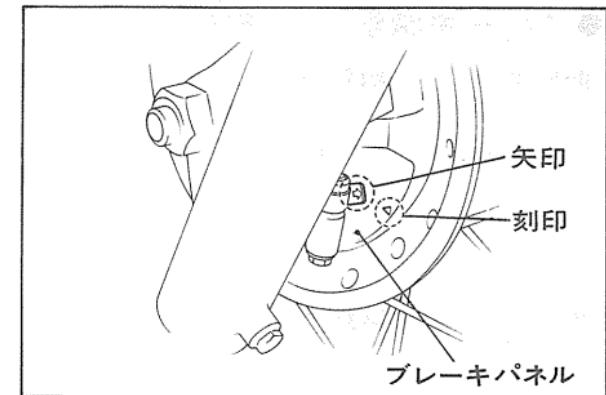
注意

- ・ブレーキ調整後、ブレーキのきき具合を確認してください。ブレーキのきき具合に異常を感じるようでしたら、販売店またはホンダSFで点検整備を受けてください。



注意

- ・ブレーキレバーをいっぱいに握って（ブレーキペダルをいっぱいに踏み込んで）、ブレーキアームの矢印とブレーキパネルの刻印が一致する場合は、ブレーキシューの使用限界です。販売店またはホンダS Fでブレーキシューを交換してください。



● ミッションオイルの交換

《交換時期》

初回：1,000 km、以後：2年毎です。

《推奨オイル》

"ホンダ純正オイルウルトラ-U (4サイクル二輪車用)" またはAPI SE級10W-30。

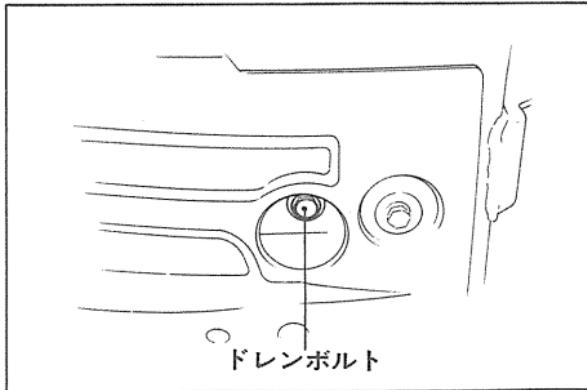
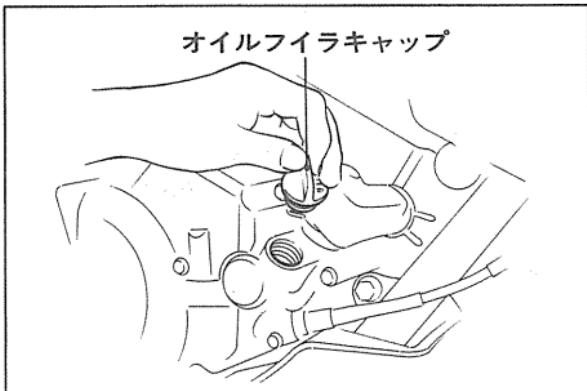
《ミッションオイル》

全容量 : 0.6 ℥

オイル交換時 : 0.5 ℥

《交換要領》

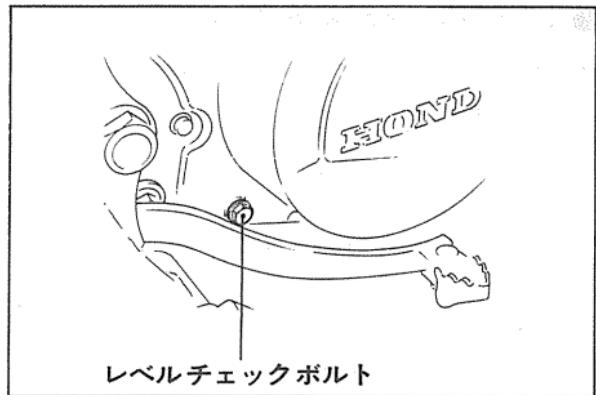
1. 平らな場所に車を置きオイルフィラキャップを外し、ドレンボルトを外して、オイルを完全に抜きます。エンジンが適度に暖かいときに行なうと、クランクケース内に残るオイル量が少なく早く抜けます。
2. ドレンボルトをきれいに洗い、クランクケースに確実に締付けます。
3. オイルを規定量注入します。
4. 注入後、オイルフィラキャップをクランクケースに確実に取付けます。



5. 2～3分間暖機運転をしてオイル洩れがないか確認し、エンジンを止めオイルレベルチェックボルトを外してオイル量を確認してください。油面がチェックボルト穴より低いときは、チェックボルト穴からオイルが出てくるまで、オイルを補給してください。

注意

- ・ホンダ純正オイルウルトラ-U(4サイクル二輪車用)
- ・次の使用条件下では、オイルの劣化が早まります。早目に交換してください。
 - ・未舗装路での頻繁な走行
 - ・短距離走行の繰り返し
 - ・アイドリング状態での頻繁な使用
 - ・寒冷地での使用
- ・長期間車を使用しない場合、オイルに不純物（水分、ほこり等）が混入することがあります。再使用時にはオイルを交換してください。
- ・エンジン停止直後の交換は、エンジン本体やマフラーの一部が熱くなっていますから、火傷にご注意ください。



● ドライブチェーンの点検・調整

チェーンガイド・スライダ

ドライブチェーンテンショナの点検

- 常日頃、適切な給油とたるみ調整を行なうことが、チェーンの寿命を伸ばします。特に雨の中を走った後や洗車の後、また悪路走行の後などは必ずチェーンに給油し点検を行なってください。

《ドライブチェーンのたるみ、伸び具合の点検》

- ドライブチェーンテンショナを押し下げ、チェーンを上下に動かして、たるみを点検します。たるみは35~45mmあるのが正規です。

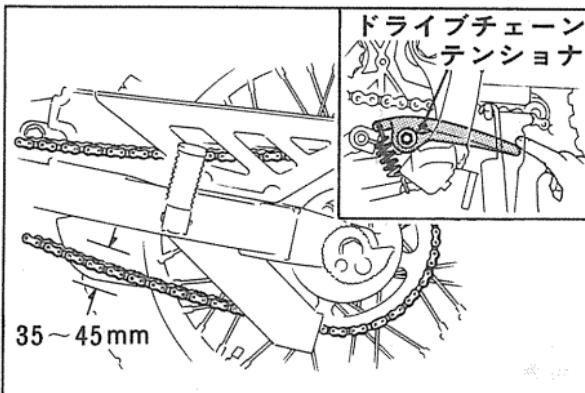
《チェーンガイド・チェーンスライダ

ドライブチェーンテンショナの点検

- チェーンガイド、チェーンスライダの摩耗を点し、摩耗、損傷のあるものは交換してください。

注意

- たるみが60mmを越えると、他の部品と干渉し異音が出たり、チェーン外れを起こすこともありますので、60mmを越えて使用しないでください。



〈調整〉

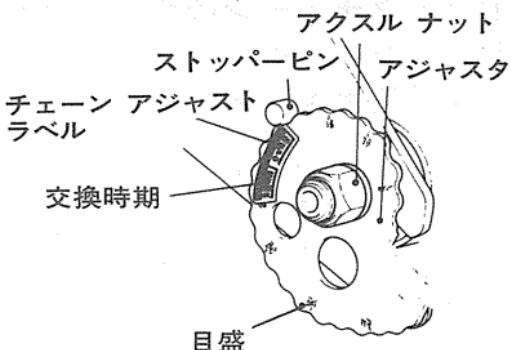
1. アクスルナットをゆるめ、左右のアジャスターを回してチェーンのたるみが30~40mmになるように調整します。このとき、ストップピンが交換時期（赤色範囲）に達したら販売店またはホンダS Fでチェーン交換をしてください。
2. 調整後は、アクスルナットを確実に締めます。

注意

- ・アジャスターは、必ず左右同じ位置で合わせてアクスルナットを確実に締付けて下さい。
- ・調整後は、必ずブレーキペダルの遊び調整をしてください。（38ページ参照）

《給油状態の点検》

- ・チェーンが乾いていないか、ほこり、ゴミ、土砂などの付着がないか点検します。
- ・ほこり、ゴミなどを拭きとり、ギヤーオイル（80#~90#）を給油してください。つけ過ぎると、オイルが飛び散り衣服や車を汚しますのでご注意ください。



注意

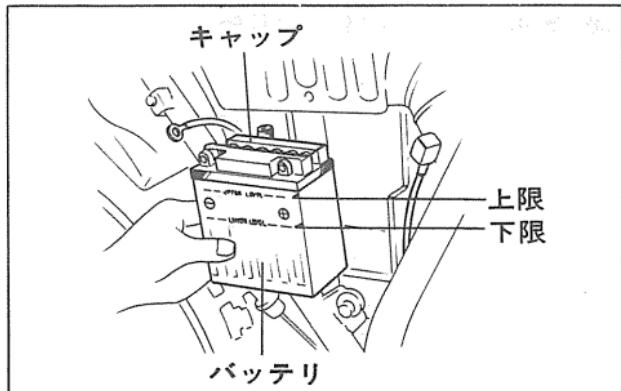
- ・このチェーンは、ゴムのシールを使用しているので、スチーム洗浄は行なわないでください。また溶剤入り潤滑油（チェーンスプレー等）の使用は、チェーンの寿命を縮めがあるので避けてください。
- ・チェーンが乾燥しないように給油してください。

●バッテリ液の点検・補充

- ・バッテリ液面が下限(LOWER LEVEL)に下ってきたら、各キャップを外して蒸留水を上限(UPPER LEVEL)まで補給してください。

注意

- ・バッテリ液の点検は車を垂直にして行なってください。車体が傾いていると、バッテリ液量は正確に計れません。
- ・蒸留水を入れ過ぎると、こぼれて腐触の原因になります。
- ・バッテリ液を点検、補給しバッテリを取り付けた後は、ブリーザチューブがバッテリエルボにしっかりと結合されているか確認してください。
- ・ブリーザチューブがかんだりつまっていると、バッテリの内圧が高くなりバッテリケースが破損することがあります。車に貼つてあるラベルに従い確認してください。
- ・バッテリからは、可燃性の水素ガスが発生していますので、取扱うときは火気を近づけないでください。



注意

- ・バッテリ液は、希硫酸で目や皮膚を侵しますので十分注意してください。
万一、付着したときはすぐ多量の水で、少なくとも5分間以上洗浄して専門医の診察を受けてください。
- ・充電の際は結線に十分注意し、すべてのキャップを外してください。また密閉された場所では必ず換気を行なってください。

●クラッチの点検・調整

クラッチレバーの遊びは、クラッチレバーを軽く握り、レバー先端で10~20mmあるのが正規です。

- ・調整は、ロックナットをゆるめアジャストナットで行います。

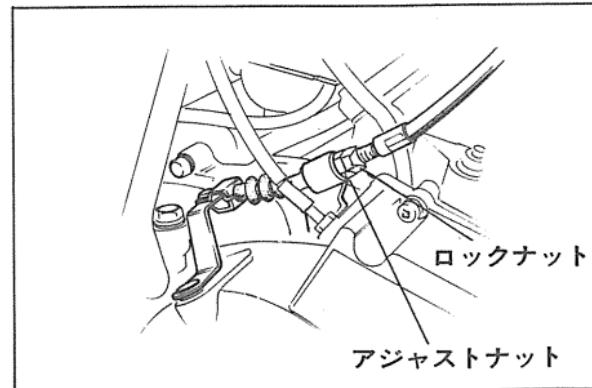
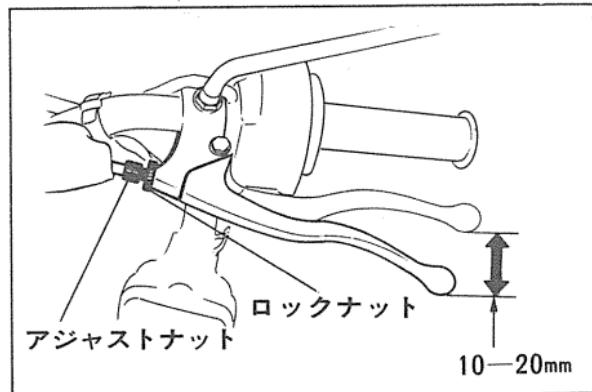
調整後は、ロックナットを締付けます。

- ・微調整ならば、レバー側のロックナットをゆるめアジャストナットで行います。

調整後は、ロックナットを締付けます。

注意

- ・調整後、エンジンをかけエンジ操作がスムースであるか、エンストまたは飛び出し等がないか確認してください。



●エアクリーナエレメントの清掃

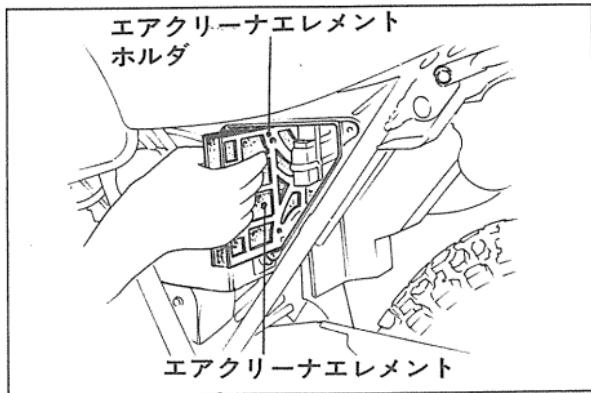
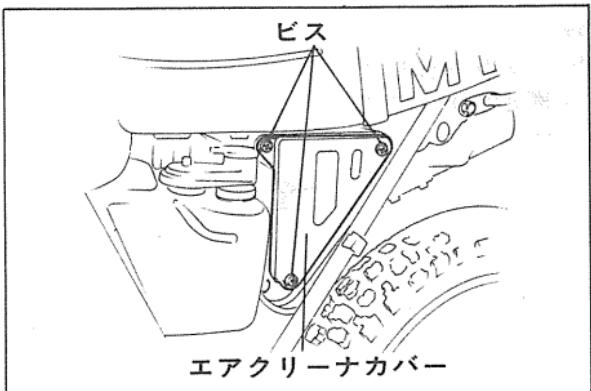
《取外し》

1. 左サイドカバーを取外します。
2. ビスを外し、エアクリーナカバーを取り外します。
3. エアクリーナケースからエアクリーナエレメントホルダを引き抜きます。
4. エアクリーナエレメントホルダからエレメントを外します。
5. エアクリーナエレメントを、きれいな洗油で洗い、絞ってから乾いた布でつつみさらに絞ります。

きれいな、“ホンダ純正オイル ウルトラ-U (4サイクル二輪車用)”または10W-30相当のエンジンオイルに浸し、固くしぼって取付けます。(オイル含浸量は、8～15ccが適量です。)

《取付け》

取付けは、取外しの逆手順で行ないます。



注意

- ・ガソリンや引火点の低い洗浄剤は、非常に燃えやすいので、エレメントの清掃には、使用しないでください。
- ・エアクリーナエレメントの取付けが不完全であると、ゴミやほこりを直接吸って、シリンドラの摩耗や出力低下を起こし、エンジンの耐久性に悪影響を与えます。確実に取付けてください。
- ・また、洗車時エアクリーナに水を入れないようご注意ください。エアクリーナ内部に水が入ると、始動不良等の原因になります。

●スパークプラグの点検

電極が汚れたり、電極の隙間が大きくなると、完全な火花が飛ばなくなります。

《清掃》

- ・プラグクリーナを使用するのが最も良い方法です。販売店またはホンダS Fをご利用ください。
- ・プラグクリーナが無いときは、針金かワイヤブラシで汚れを落してください。

《調整》

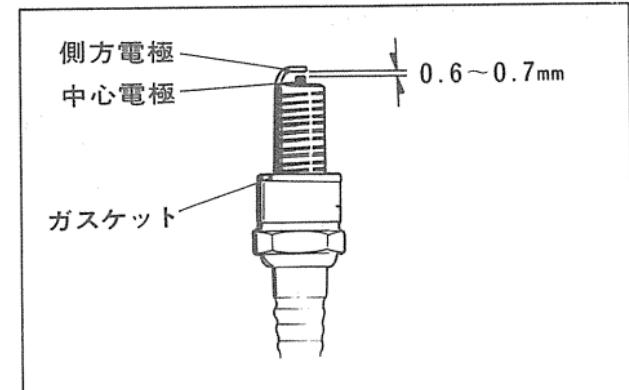
- ・側方電極をつめて、隙間を0.6~0.7mmにするのが正規です。

《指定プラグ》

(NGK) : <B9ES>、B7ES、B8ES

(ND) : <W27ES-U>、W22ES-U、
W24ES-U

< >は標準プラグ



- ・ガスケットが変形していたり、傷があると吹き抜けを起こしエンジン性能を低下させことがあります。必ずガスケットも点検しましょう。
- ・プラグの交換はエンジンが冷えているときに行なってください。
- ・プラグの取付けは、ねじ山をこわさないように、まず指で軽くねじ込み次にプラグレンチで確実に締付けてください。

●ヒューズの交換

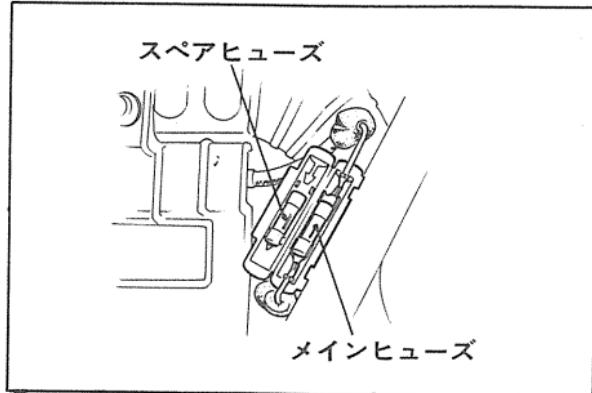
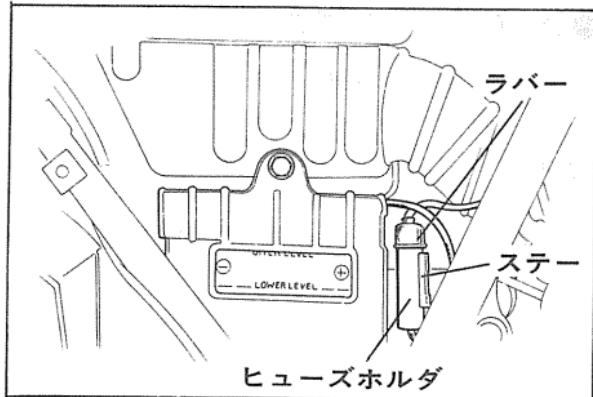
ヒューズホルダが、バッテリにセットされています。

取付け時は、ヒューズホルダのラバー側を上にしてステーに取付けてください。

規定のヒューズは、10Aです。

注意

- ・ヒューズホルダのラバーを下側にして取付けないでください。



注意

・取外し時

ホルダ部をひろげないように注意して取外してください。

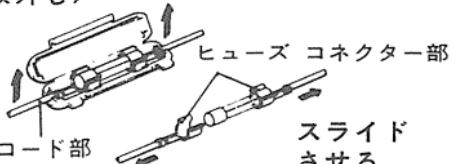
・取付け時

ヒューズをホルダ部に完全に取付けてください。

ホルダ部に取付け後、ヒューズが容易にスライド方向(横方向)に動かないか確認してください。

ヒューズが容易に動くと発熱し思わぬ故障を招くことがあります。

〈取外し〉



〈取付け〉

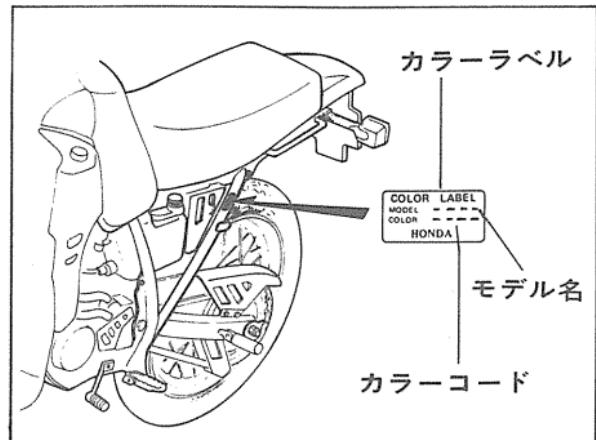


注意

- ・規定(指定)容量のヒューズ以外のものは絶対に使用しないでください。
- 規定(指定)ヒューズ以外のものや、大容量のヒューズを使用すると配線コードなどを焼損させる原因となります。
- ・電装品類(ライト、計器など)を取付ける時は車種毎に決められている「ホンダアクセサリ」をご使用ください。それ以外のものを使用するとヒューズが切れたりバッテリ上りを起すことがあります。
- ・ヒューズが切れたら、原因を調べてなおしてから、新品と交換しましょう。そのまま交換しても再び切れます。
- ・ヒューズ切れの原因が不明の場合、販売店またはホンダS Fにお申し付けください。
- ・洗車時、ヒューズホルダの周りから水を強く吹きつけることは避けてください。

■色物部品をご注文のとき

色物部品をご注文のときは、左側サイドカバーを取外し、フレームに貼ってあるカラーラベルのモデル名とカラーコードもお知らせください。



■エンジンが始動しないとき

始動しないまたは動かなくなったときは、次の点を調べてください。

- ・エンジンキルスイッチはRUNになっていますか？ OFFの状態になっていたときは次のことを行なってください。
 - エンジンキルスイッチをOFFのままにします。
 - チョークレバーを全部戻します。
 - スロットルを全開にします。
 - メインスイッチをONにします。
 - キルスイッチをRUNにし22ページの始動要領でエンジンをかけてください。
- ・ガソリンタンクにガソリンはありますか？
- ・エンジンのかけかたは取扱説明書通りですか？

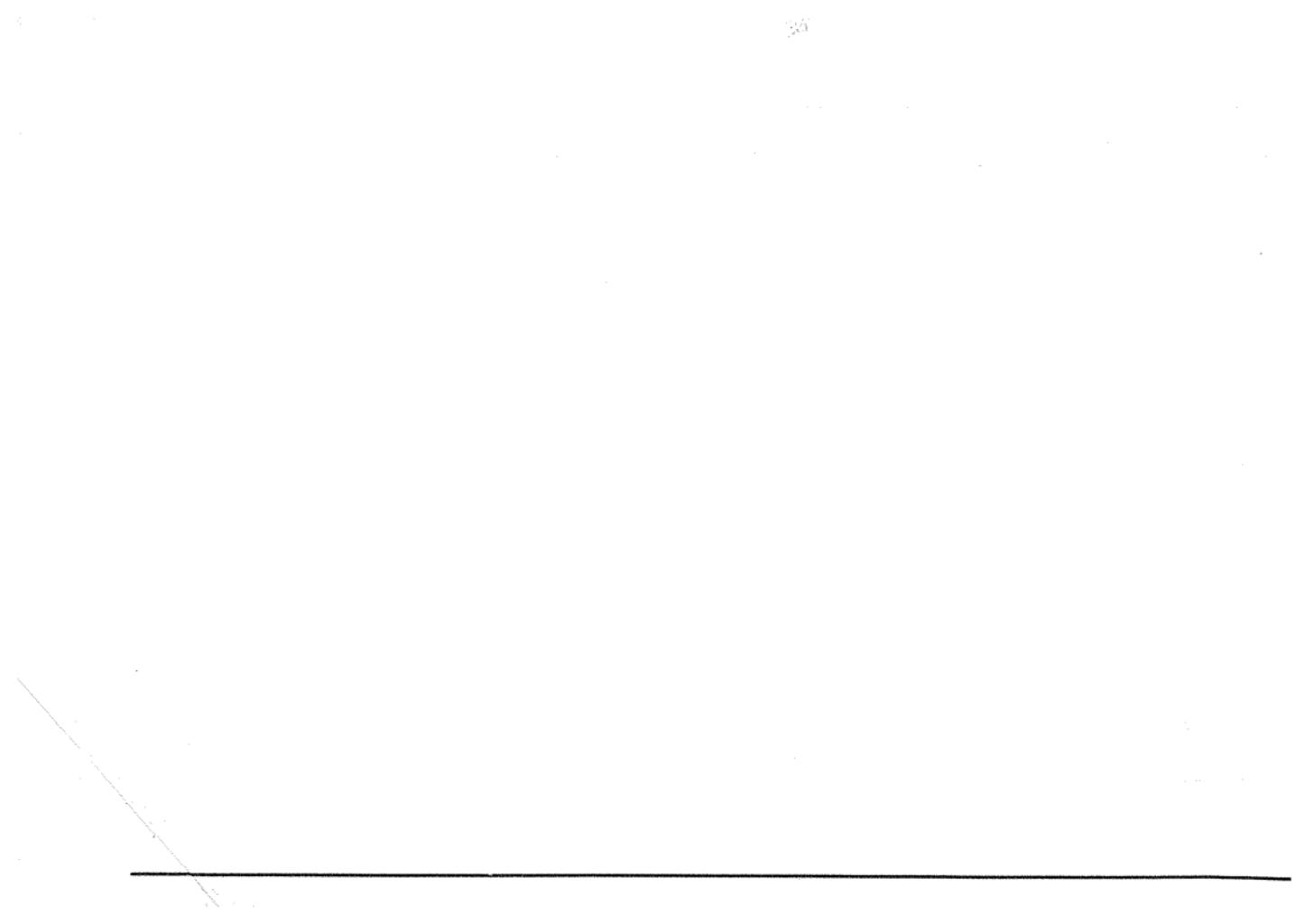
故障の修理

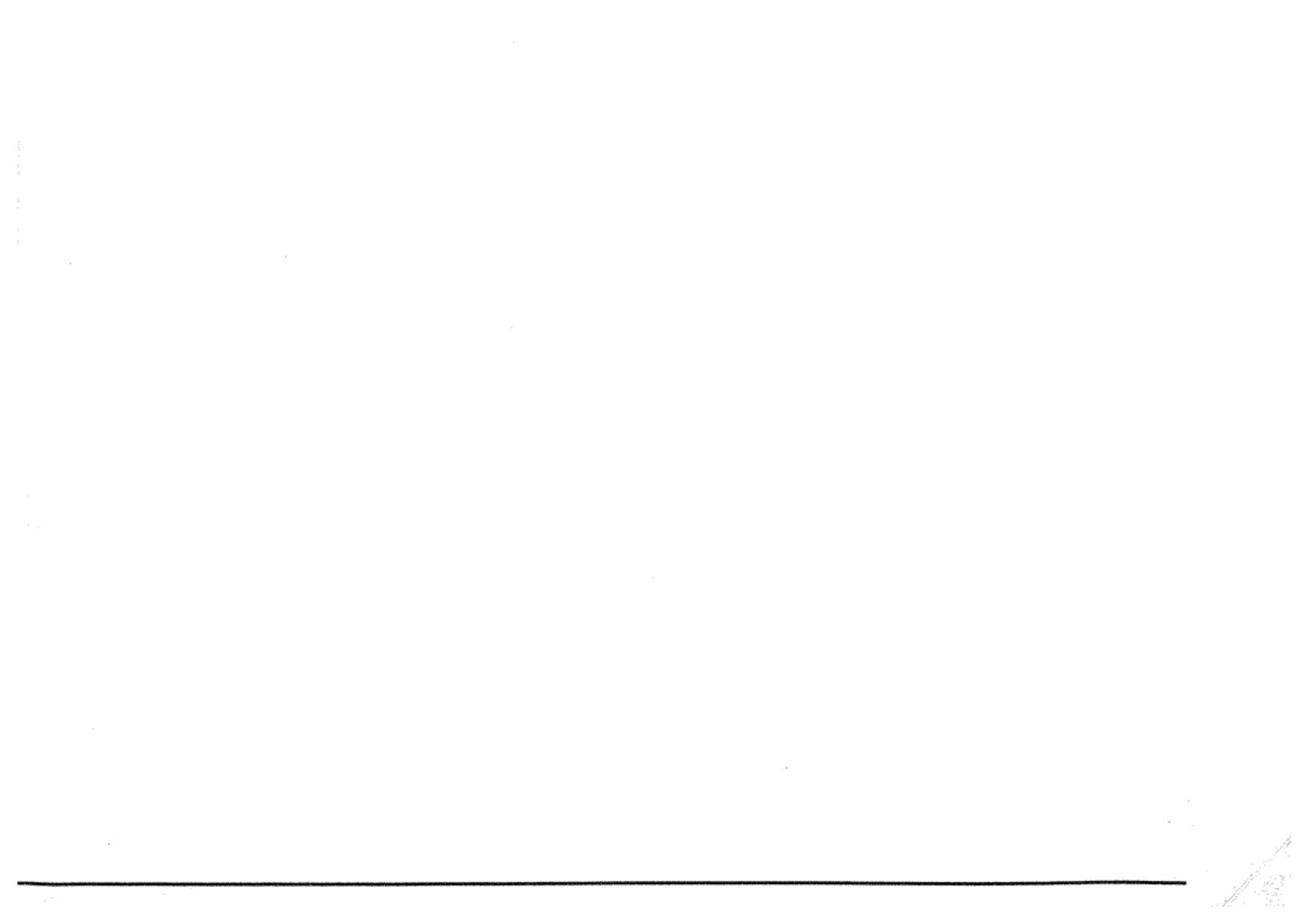
- ・販売店またはお近くのホンダS Fにお申しつけください。
- ・むやみに修理しないで、早く販売店で点検整備をしてもらうことが、お車を長持ちさせる秘けつです。

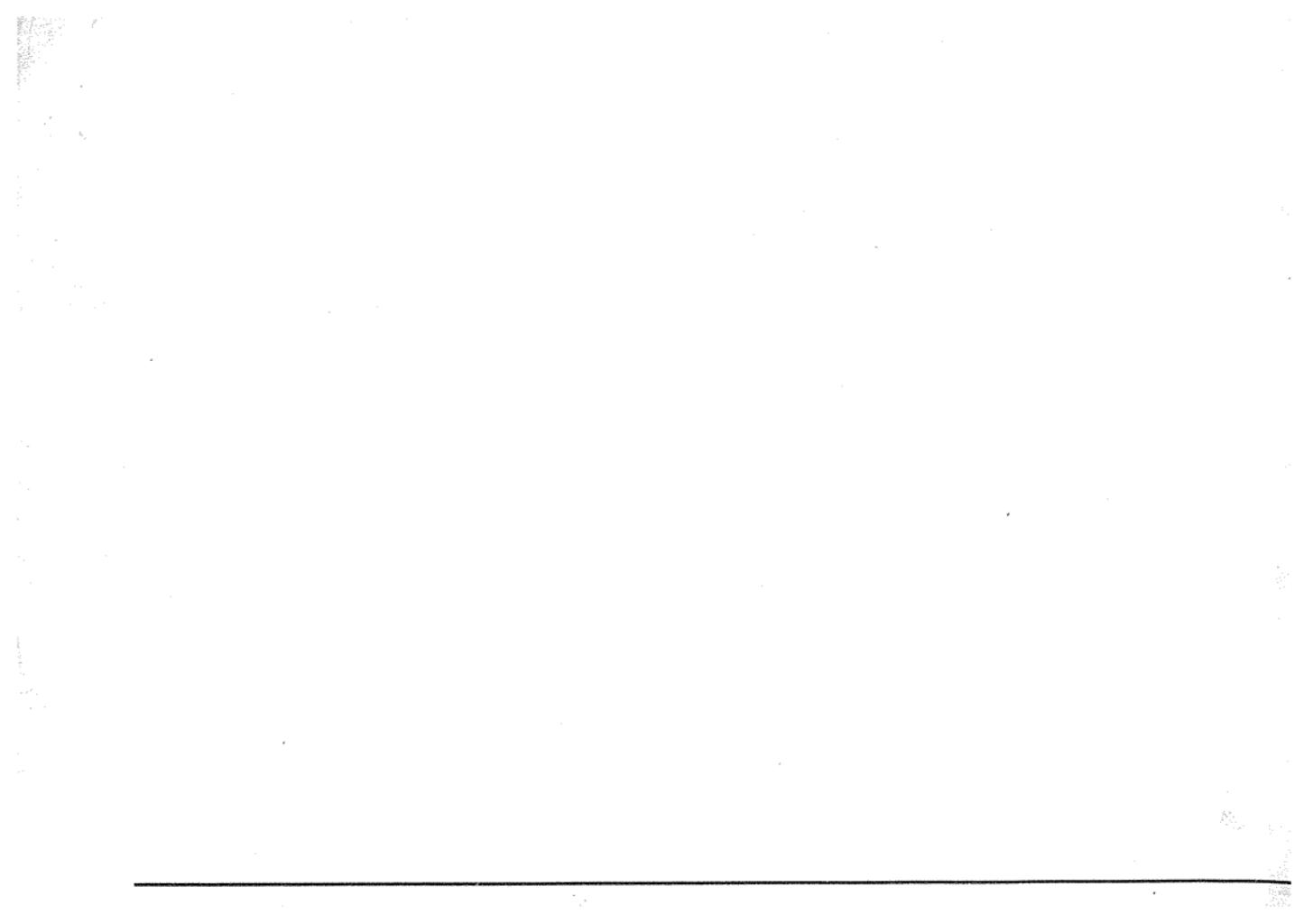
■主要諸元

型 式	MD07
長 さ	2.085m
幅	0.830m
高 さ	1.175m
軸 距	1.350m
総 排 気 量	0.193 ℥
車 両 重 量	112kg
乗 車 定 員	2名
タ イ ヤ	2.75-21-4PR(前輪), 4.10-18-4PR(後輪)
最 低 地 上 高	0.285m
燃 料 消 費 率	50.0km/ ℥ (車速50km/h)
制 動 停 止 距 離	16.0m(初速50km/h)
登 坂 能 力 ($\tan \theta$)	0.50
最 小 回 転 半 径	2.0m
圧 縮 比	7.5
圧 縮 圧 力	12.0kg/cm ² - 400rpm
最 高 出 力	26PS/7500rpm
最 大 ト ル ク	2.6kg-m/7000rpm

オイルタンク容量	1.2 ℥	
燃料タンク容量	9.0 ℥	
点火形式	CDI式	
点火時期	BTDC19°/1300rpm	
点火プラグ ()内は標準	NGK	B7ES, B8ES, (B9ES)
	ND	W22ES-U, W24ES-U, (W27ES-U)
蓄電池(バッテリ)	12V - 3Ah	
機関から変速機までの減速比	3.050	
クラッチ形式	湿式多板コイルスプリング	
変速機形式	常時噛合式	
変速機操作方式	左足動式	
変速比 1速	3.090	
2速	1.937	
3速	1.368	
4速	1.090	
5速	0.916	
6速	0.769	
第一減速比(チェーン)	3.230	
フロントクッション空気圧	0~0.4kg/cm ²	

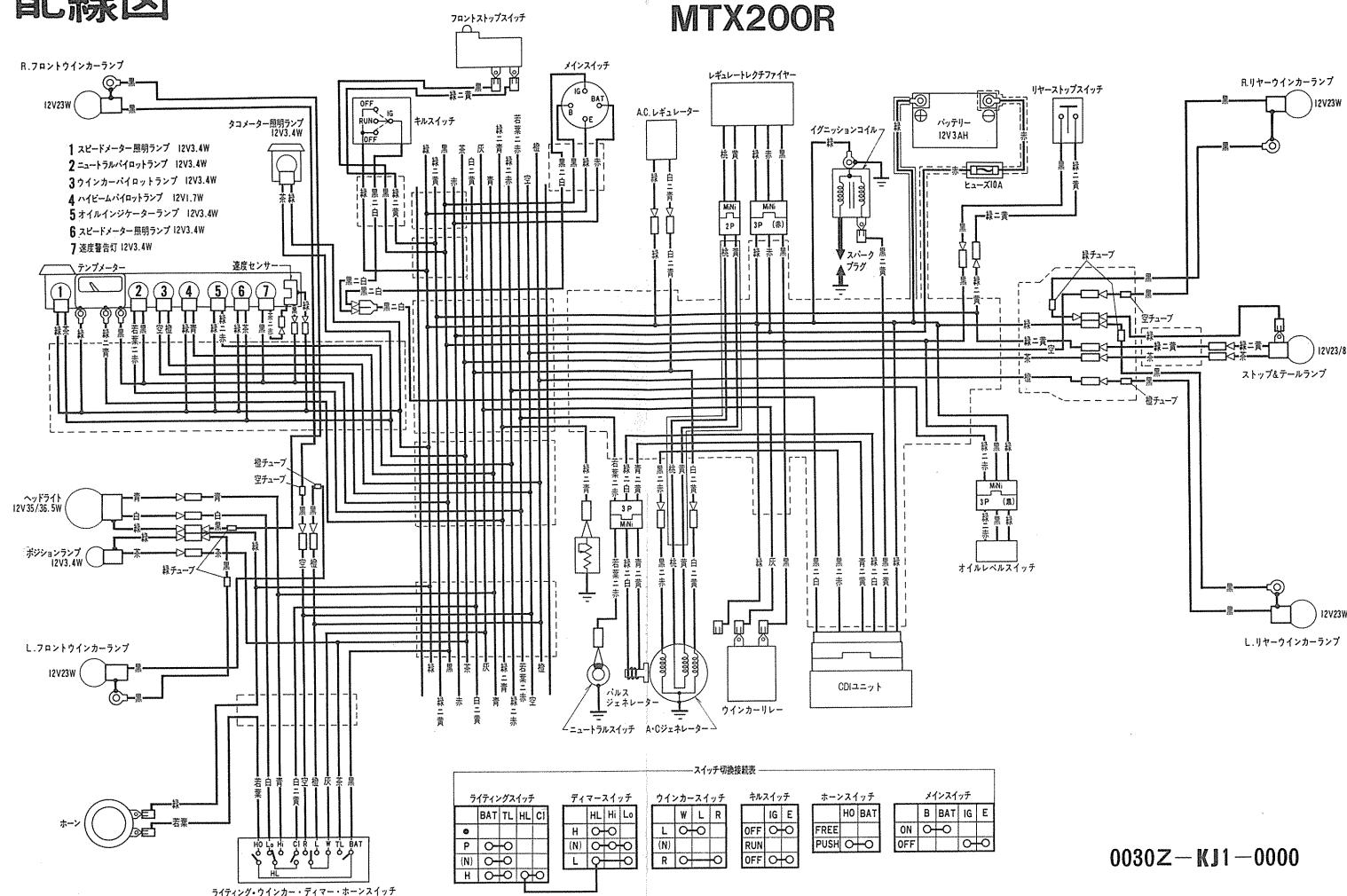






配線図

MTX200R



0030Z-KJ1-0000

バルブ(電球)の交換の場合は必ず正規のワット数のものを使用してください。

身につけよう。安全運転の正しい知識と良いマナー。



出合頭の事故に注意。見通しのわるい交差点では必ずいったん停止・徐行を習慣づけましょう。(正しい安全運転の知識は、小冊子「セーフティライディング・セーフティポイント」で詳しく解説しています。ご一読ください。)

レメットを正しくかぶりましょう。

S.SGマークのついた乗車用ヘルメットをかぶり、あごひもは正しくしめましょう。



リスト・スクールの訓練風景。
MS ホンダ・モーターサイクル

楽しいモーターサイクルの世界をひろげるために――

●乗車の基本から安全な乗り方まで、幅ひろい知識・技術を身につけた「安全運転普及指導員」がお待ちしています。何なりとお気軽にご相談ください。

●ツーリングなど楽しい活動を通じて安全の輪をひろげるグッドライダーの集まり「セーフティクラブ」にご参加ください。各種の催しものへのご招待をはじめとする数々の特典があります。

●モータースポーツの話題から安全運転の基本的な知識・技術まで、魅力ある情報を満載してお届けする「セーフティ2&4」の定期購読をおすすめします。

※上記の事柄に関するお問合わせ・お申込みはホンダ販売店かホンダSFまで。

●学校や企業、グループなどで初心者や指導者を対象とする「安全運転講習会」をお考えの場合は交通教育センターのご利用をおすすめします。詳しくは下記へお問い合わせください。

交通教育センター〈レインボー〉 埼玉県比企郡川島町出丸下郷53-1 0492(97)4111

鈴鹿サーキット交通教育センター 三重県鈴鹿市稻生町7992 0593(78)0387

交通教育センター〈福岡〉 福岡県粕屋郡新宮町大字下ノ府字塙山599-09296(2)2761

 **ホンダ安全運転普及本部**
〒150 東京都渋谷区神宮前6-27-8

北海道地区事務局	札幌市中央区北一条西7-1	011(251)9231
東北地区事務局	仙台市土崎1-11-2	0222(25)6171
関東地区事務局	東京都渋谷区神宮前6-27-8	03(498)3251
中部地区事務局	名古屋市中区千代田1-7-2	052(261)2671
関西地区事務局	大阪市北区南扇町7-31	06(313)1171
九州地区事務局	福岡市博多区祇園町8-7	092(291)5131



HONDA

本田技研工業株式会社
東京都渋谷区神宮前6 27 8

30KJ1600
00X30-KJ1-6000

M8305C